



くすり博物館だより

〒483 岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・058689-3111

第1号

ごあいさつ

みなさまがたには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、当財団の付帯事業として推進し



財団法人 内藤記念科学振興財団理事長 内藤 祐次

ております、わが国最初の「くすり博物館」ができてから満7年を経過しました。この間、収蔵資料は約5千点、収蔵図書は約1万5千冊を数えるに至りました。これはひとえに全国各地の有志の方がたのご協力のおかげと、厚くお礼申し上げます。

昭和46年6月開館以来の来館者数も10万人に達しました。館内での特別展示のほか、年数回は各地に資料

を貸し出し、地方の方がたにもご覧いただき、薬学薬業の普及と発展にご利用いただいております。

この上とも内容の充実に努め、健康科学博物館をめざす「くすり博物館」を、より多くの方がたに知っていただき、ご利用いただくために、このたび「くすり博物館だより」を創刊いたすことにしました。みなさまがたのお役に立てば幸いです。



岐阜県の、伝統的な建物、合掌造りを模した六階建ての博物館の全景

特別展示 人類とともに4000年 セルフメディケーションと大衆薬

新展示「人類とともに4000年・セルフメディケーションと大衆薬」は、日本大衆薬懇談会のご協力を得て、当館3階の特別展示場に6月23日オープンしました。

この展示は、治療の第一歩であるセルフメディケーション(Self medication)に対する正しい知識を得ていただくことを目的としておりま

す。そして家庭で常備しておきたい救急セット、家庭常備薬を紹介し、薬の正しい使い方をパネルで解説しています。

※ ※ ※

ケガをしたり、軽い病気の時、昔の人はどうしたでしょうか。それぞれの家庭にはとっさの応急手当や、妙薬を知っているお年寄がいて、手



軽に適切な処置が行われていたようです。多年の経験を生かした、家族ぐるみの健康管理体制が確立されていたのです。

ところが戦後、日本の家族制度が変わり、核家族化が進むにつれて、

このような“良き伝統”もすたれ、ほんの軽い病気でも、医師の門をたたきケースが多くなりました。病気の程度にもよりますが、何から何まで医師にまかせるというのはあまり感心できません。

自分の健康は、本来自分で管理すべきものです。

「この程度は自分で治せる」

「これは医師に診てもらった方がよい」

といった適切な判断ができてこそ、良識のある現代人といえましょう。みなさんの家庭の健康管理のために、セルフメディケーションのための薬について解説したのが、この新展示です。

セルフメディケーション

自分で判断できる範囲内の病気を、自分で手当して治すことをセルフメディケーションといいます。そのセルフメディケーションのために用いられる薬が「大衆薬」です。大衆薬は薬に対する正しい知識を持って正しく使ってください。

主な展示物

- 各地の「家内安全・無病息災」のお守り、お札
- 江戸時代の民間療法・民間薬に関する本
- 江戸時代に婚礼道具として持参した家庭用薬箱
- 江戸時代の印籠、道中用の救急薬入れ
- 大正時代の救急箱、戦時中の救急箱、救急セット
- 日本と外国の大衆薬
- 正しい薬の使い方をPRするポスター類
- 大阪府指定模範薬局の表彰状・記念品

▷蘇民将来の符と絵馬 津島神社



蘇民将来の子孫は、津島大神の加護により悪疫流行を免がれるという言い伝えがあります。

人々は蘇民将来にあやかろうと、競ってこの符を買い求めました。

▷救民妙薬



徳川光圀は「山野貧賤の地に医もなく薬もない」ことを憂い、穂積甫に救急箱

庵に命じ、求め易い薬方を集めさせ、済民の一助としました。

▷外国のポスター

セルフメディケーションの心得を示すパンフレット（イギリス）や、ポスター（スイス）などが展示されています。セルフメディケーションは世界的な運動となっています。



江戸時代から現在までの、さまざまな救急箱がみものです。写真はその一部で、大正時代の救急箱、戦時中の豆型薬品入れ、米軍の救急薬品セット、旧陸軍の救急薬品類などです。





▲カロリー消費量を教える展示
(ダラス健康博物館)

アメリカの博物館

くすり博物館長 **あおき のぶ お**
青木 允夫

昨年11月28日から約1か月、サンフランシスコを起点に、ワシントン、ニューヨーク、フィラデルフィア、クリーブランド、シカゴ、ダラス、ロスアンゼルスと、アメリカ各地の博物館・図書館などを見学してきました。

全米には独立した薬博物館はありませんが、医学薬学に関する展示コーナーのある博物館は約百近くあります。そのうちで最も大規模なのが、スミソニアン協会の傘下である国立歴史技術博物館です。

国立歴史技術博物館(ワシントン)

アメリカ最大のこの博物館には3日間通いづめで、医学(医歯薬学)コーナーを中心に見学しました。とりわけ、薬学薬業史コーナーにある18世紀のドイツの薬局の復元は実に見事でした。

レトルト・フラスコ・試薬瓶などが雑然とし、当時の薬局は一方では彼らの化学実験場であり、製薬室であることが実によくわかります。

薬壺のコーナーでは、古代からの薬壺を国別に系統的に分類展示してありました。そのほか、19世紀のアメリカの薬局の復元、薬の起源、抗生物質の歴史、薬AからZといった展示があり、興味深く見学しました。

資料の交換展示

館長のヒンデルさんは3年前、岐阜のくすり博物館においでになったことがあり、私共(エーサイ社長室の木村浩さんとの二人旅でした)の訪問を非常に歓迎して下さい、ブドウ酒でのもてなしをされました。

そして医学部門長のコンドラッドさんを交じえ、歓談しました。その際、相互に収蔵する資料の交換展示をする約束ができました。この館の資料は未だかつて国外へ持ち出したことはなく、これが実現すればまさに画期的なことで、ぜひ早い機会に実現させたいものです。



▲スミソニアンのヒンデルさん(左)と歓談する筆者(中)

このほかにも、いくつかの医学、科学博物館と資料や情報の交換を約束してきました。

日本の資料(シカゴ外科博物館)

世界各国別に著名な外科医を紹介するコーナーのあるこの博物館では“Hope and Help”と銘のある、医者

が患者を支えている像が印象的です。

「日本」の展示室には、華岡青洲、杉田玄白などの業績が紹介されています。ところが、杉田玄白と丹波康頼の肖像と説明文が入れ替わっており、館長に伝えますと「これまでの日本人来館者の誰もそれを指摘してくれなかった」と撫然たる表情でした。他の医学博物館でも、日本からのいくつかの資料について解説してさし上げ、喜ばれました。

エール大学医学図書館には20数枚のはしか絵があり、国会図書館には初版の日本薬局方ラテン語版がありました。(日本では、くすり博物館に1冊あるのみ)



▲青洲人体実験図(シカゴ外科博物館)

ウェルカム

クリーブランドでは初対面の医学博物館長に夕食をごちそうになったり、ニューヨークでは版画のコレクターとして著名なヘルファンドさんに一日中、車で案内していただいたり、各地で大変暖かい歓迎を受けました。7年前のくすり博物館開館時来館されたハマネーさんとも再会、彼の家庭に招かれ、旧交を暖めました。

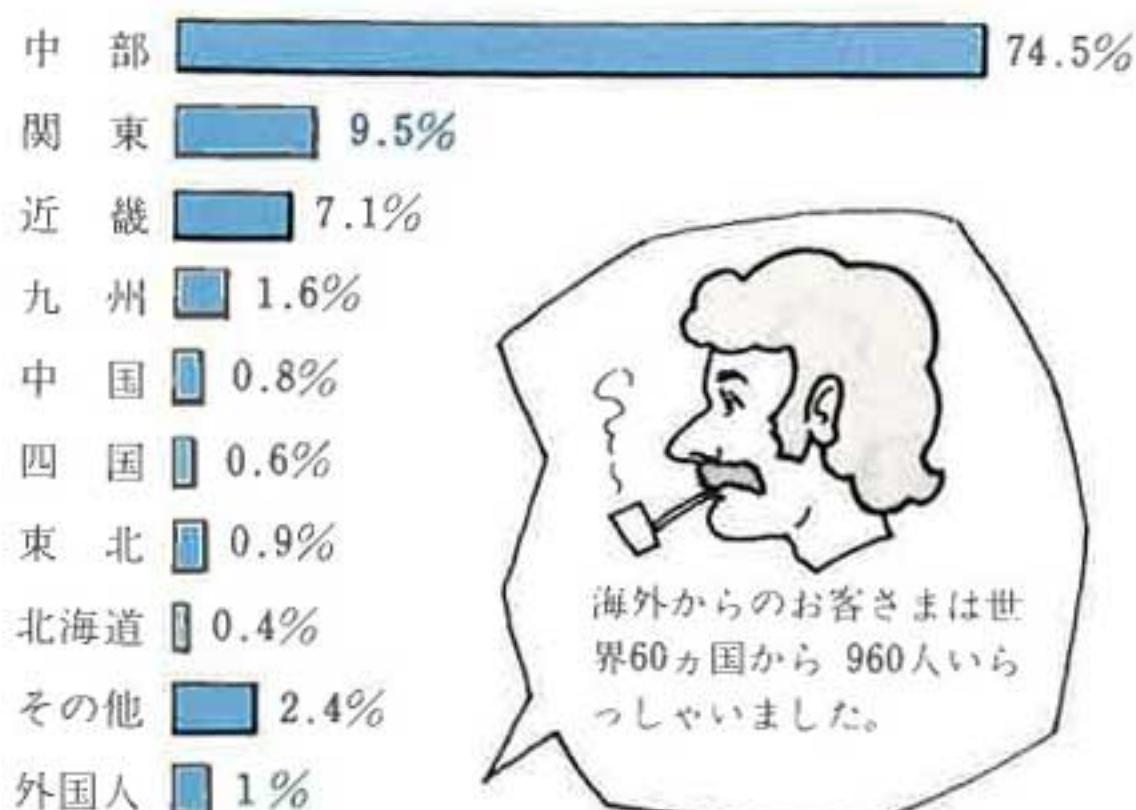
アメリカの博物館をみて、その展示技術、P.R. 運営面など見習うべきものも多く、大きな収穫を得て来ました。

これらの収穫を、いかにわれわれの博物館に生かしていくか……これが今後の一つの課題でしょう。

あなたはもういらっしゃいましたか？

くすり博物館利用状況(来館者) / 昭和46.6.12~53.3.31

年度	期間	来館者数	医・薬関係	生徒・児童	一般	一日平均
第1年度	昭和46.6.12~47.3.31	11,654人	45%	20%	35%	49.8人
第2年度	昭和47.4.1~48.3.31	12,577人	35%	20%	45%	41.2人
第3年度	昭和48.4.1~49.3.31	13,037人	40%	25%	35%	42.6人
第4年度	昭和49.4.1~50.3.31	14,738人	35%	30%	35%	46.9人
第5年度	昭和50.4.1~51.3.31	14,190人	30%	32%	38%	46.1人
第6年度	昭和51.4.1~52.3.31	12,952人	34%	36%	30%	42.2人
第7年度	昭和52.4.1~53.3.31	14,488人	28%	33%	39%	46.0人



◎ご利用ください くすり博物館出版物

博物館ガイドブック	見学者の手軽な手引書	300円
「白沢」ミニチュア	病気よけの置物	700円
「」	ケース付	1200円
絵はがき	3組各8枚	200円
蔵書目録 和漢書の部		3000円
錦絵「飲食養生鑑」		
「房事養生鑑」複製	2枚1組	1000円
現代の性教育	性教育を考える会編	200円
結核絶滅へのみち	岡西順二郎著	200円
わが国の結核	小松良夫著	200円
近代薬学の発展	岡崎寛蔵著	400円
Temples of the Museum and a History of Pharmacy Museums'	Sami K. Hamarneh著	1850円
The Naito Museum of Pharmaceutical Science and Industry	Sami K. Hamarneh著 上記の抜刷	200円
Origins of Pharmacy and Terapy in the near east	Sami K. Hamarneh著	1850円
The History of Medicine in Japan	内藤記念科学振興財団編	

くすり博物館伝言板

くすり博物館には、こんな映画やスライドがそろっていて、希望者にお見せしたりお貸ししたりします。

◀16%映画・カラー▶

エーザイ川島工園・くすりをつくる・LYSOZYME・血小板と血栓・めまい(アニメーション)・ユベロンとヒマラヤの旅・創業者内藤豊次・エーザイ25周年・碧素誕生・人工中絶・妊娠と避妊

◀スライド▶

伝染病の話・高血圧の健康管理・成人病対策・ノイローゼ・ふえ続ける心臓病・リハビリテーション・伝染病の知識と予防・結核の知識と予防・高血圧の治療と予防・発作時の救急処置・肥満と高血圧・妊娠の知識・オギノ式の計算法・妊娠の成立・受胎調節の器具と薬品・失敗の原因・生きることと愛すること・人工妊娠中絶はやめよう・妊娠の知識・性病の知識

また、くすり博物館内には大ホール(300人収容)と会議室(52人収容)があり、一般にもお貸しします。遠方の方には宿泊施設もあります(木曾川寮:一泊¥1,100食事別)。

とぴっくす

▶イタリアに資料貸出す

藤沢薬品海外マーケティング部を介して、イタリアのロレンチニ財団に錦絵類を数点貸出しました。これは2月上旬に催された「Drugs and Communication」の特別展に出品したものです。

▶NHK総合テレビで紹介さる

毎夕6時からの番組「600こちら情報部」の中、「びっくり博物館」のコーナーで、4月26日くすり博物館が紹介されました。

▶10万人めは誰？

いよいよ「くすり博物館」入館者も10万人近くなりました。今年7月、10万人めの方が入館する予定です。記念として何かさしあげたいと考えております。10万人めは、さあ、どなたでしょう？

くすり博物館 9:00AM~16:00PM 開館 (毎月曜日・年末年始 休館)

●お問い合わせは最寄りのエーザイ支店・連絡所でも受け付けます。